

ITPパートナー機関 発展社会研究所

(Center for the Study of Developing Societies; CSDS) (HP用)

発展社会研究所 (Center for the Study of Developing Societies; CSDS)は1963年に大学や専門分野、そして研究者と実践者の間の壁を越えた新しい知的探求のプロジェクトをつくっていくことを目的に設立されました。CSDSは設立当初からインド研究者だけではなく、世界各国の研究者を積極的に受入れ、アジア・アフリカ・ラテンアメリカをはじめとして、欧米にも広がる大きなネットワークの拠点になっています。

京都大学ITPでは2009年度から若手研究者のCSDSへの派遣を計画しています。派遣は当面インプット・レベルのみを予定しています。

インプット・レベル派遣

1. 南アジア諸言語の研修コースについて

ヒンディー語、ウルドゥー語、ベンガル語、マラーティー語等をはじめとする南アジアの言語につき、パートナー機関と協議のうえ、研修生の習熟度や研究領域等のニーズにあった語学学校や語学教師の推薦・紹介を受けることとなります。パートナー機関はデリーにありますが、研修生のニーズに応じて、ベナレスでヒンディー語研修を行う、プリーでマラーティー語の研修を行う等のアレンジも可能です。これらの可能性についてはパートナー機関 (CSDS) の担当者が細かく相談に応じます。

2. 研修料について

研修語学や研修形態によって異なります。詳細はITP事務局にお問い合わせ下さい。

3. 宿舎について

語学学校による斡旋が受けられ、研究機関が集まる市内中心部に宿舎を見つけることが可能です。

4. 滞在中のコンタクト・パーソンについて

パートナー機関の東アジア研究部門の責任者であるBrij Tankha教授がコンタクト・パーソンです。